2017 全国剣道中央講習会で使用された資料の中から抜粋

○ 指導目的

日本の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承して、その発展を図り、「剣道の理念」に基づき、高い水準の剣道を目指す。

○ 技能の指導目的

① 初心者

- 剣道を正しく受け止められるよう興味や関心を高める。
- 剣道の基本的な動作や作法を正しく身につける。

② 初級者

- 生涯を通じて剣道に親しみ、修練を通して、豊かな生活をつくり出すための基礎的な態度や安全に対する態度を養う。
- 対人的技能を身につけさせ、気剣体の一致した、しかけ技を主に指導する。

③ 中級者

- 現代社会に必要な社会的態度の向上につとめ、自己の確立を図る。
- 鍛錬度を高め、社会貢献と剣道の正しい伝承に寄与する態度を養う。
- 理合を熟知し、高段者に相応しい心気力一致の剣道を目指すとともに審判能力・指導能力を高める。

○ 剣道実技

① 礼法（礼の考え方）

相手の存在を認め、敬意の念をもって互いに高め合うこと。神前、上席や上座に対しては「30度」、相互の礼は「15度」に上体を傾けて行う。また、「蹲踞」についても、礼法の一つとして正しく行うことが大事である。

② 技（「仕掛け技」と「応じ技」）

打突の仕方、打たせ方、受け方が掛かり手の技量を引き出す要素となる。

「木刀による剣道基本技稽古法」（基本１～９）の応用により練度を高める。

③ 鍔ぜり合いの方法

双方とも胴の前で、鍔と鍔を交差させ、互いに竹刀を約15度左右に開き、相手側に傾斜させて構える。この場合も、適正な姿勢が大事である。

④ 体当たり

技を出した勢いのまま、鍔ぜり合いの形で相手にぶつかることを体当たりという。体当たりが問題となるケースの一例をあげると、試合場中央付近から一方の選手が引き面をかけ境界線付近まで引く、その後、もう片方の選手が追いかけて間を詰めながら、胴胸をついて場外に「突き出す行為」があげられる。

いわゆる目的外行為として、突き出した方が反則となってしまうのである。これは、技を決めようとしての「突き」ではなく、単に、「場外に出すことが主たる目的だ」という理由からの判断となる。

正しい「体当たり」の定義は、「一打突、一体当たり」あるいは「一体当たり、一打突」である。全日本剣道連盟剣道試合・剣道審判規則には、「場外に出る」又は「不当に場外に押し出す」行為を、反則行為として規定している。

誤解してはいけないのは、この体当たりは、「腰の強化」に繋がる稽古手法として昔から採り入れられてきたものであり、現在も一般的に用いられるものである。体当たりは当たるだけが目的ではなく、工夫して当たることによって、それが「崩し」となり「打突の機会」を生むものなのである。